

北海道新幹線並行在来線対策協議会 第14回後志ブロック会議 議事録

〔 日 時：令和4年7月7日（木）14:30～15:30
場 所：後志総合振興局（倶知安町） 〕

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

（1）JR北海道からの協力などについて

事務局から口頭にて説明。

【北海道鉄道担当局長】

3月のブロック会議を受けまして、以降、JR北海道と協議を進めてきたところでございますけれども、同時に協議会では、バスルート案に対する検討を進めるために、バス事業者を交えた「区間別検討会」を立ち上げまして、その中で、新たなバスルートやダイヤなどの検討を行っているところであります。

JR北海道からの協力等につきましては、そうしたバスルートの具体化が図られた段階、また、そうした流れの中で、改めてこの場において示していけるものと考えておりますが、JR北海道としての基本姿勢におきましては、まず、沿線自治体の皆様などによるバスルートの検討状況などを踏まえつつ、新たな交通体系の構築に向けて、どのような協力を行えるのか、検討していく考えでありますことを確認しておりますこと、これについて、まずご報告させていただきますとともに、こうしたことも踏まえまして、我々としては、引き続き、バスルート案の協議を行いつつ、JRの協力といったものをできるだけ早期にお示しすることができるよう、幹事会の場で検討していくといったことも考えておりますことを、併せてこの場でご報告申し上げます。よろしく申し上げます。

【北海道交通企画監（座長）】

今、事務局から説明がありましたが、この件につきまして、何かご意見ございましたら、承りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【長万部町長】

今、JRからの協力についてのお話を伺いました。バスルートが決定してからでないと、JRからの協力はできないという話だったと思いますが、バスルート決定してから町民説明会を開くというのでは、ないがしろにされたとならないでしょうか。バスルートも含めて、JRもきちんと対応する、その中で一つの方向性を見出していただけたいと思いますが、先に協議会として全てのバスルートを決定して、それをJR北海道にお示するという考え方なのでしょうか。

【北海道鉄道担当局長】

町長のご指摘も当然踏まえて対応になると思います。先ほど私からJRと検討していく考えをお伝えしましたが、同時にバスルート案について区間別検討会で検討しておりますので、その中での検討の熟度に応じて、JRやバス事業者など全ての関係者と共有していきながら、できるだけ早期にお示ししていくことになろうかと思っております。

バスルートの区間別検討については、各区間でいろいろな事情を踏まえて検討しているので、全体のスケールとしてここまでのものが準備できているというようなことも、JRにお伝えしていく必要があると思いますので、町長がおっしゃったことも踏まえつつ、対応していきたいと思

います。

(2) バス運行に向けた検討状況について

事務局から資料1-1、資料1-2について説明。

【北海道交通企画監（座長）】

ちょっと駆け足で長大路線について一気に説明して恐縮なんですけど、バスの運行に向けた検討状況のたたき台として、現時点ではこういう状況にありますということをご理解いただきたいということで本日も説明申し上げました。

ユーザーの方によって、行先が当然違いますから、様々なご意見が出てくると思いますし、地域の皆様の方からは、通学や通院が広域化する中で、どういうふうに通えるんだろうかと、不安の声があるのも事実だと思います。

本日もお示した案につきましては、今後、幹事会やブロック会議の中でたたいたものをご説明ができるように、熟度を高めていきたいと考えております。

駆け足で恐縮だったのですが、この案を進めさせていただいてよろしいでしょうか。ご意見があれば伺いしたいと思いますが。

【長万部町長】

今、バスルートの検討状況を説明いただきましたが、長万部・黒松内間は、いろいろな路線の設定の仕方がありますが、このバス路線を協議するにあたって、例えば長万部・黒松内間、黒松内・倶知安間は、別にしながら協議を進めていくという考えはないのでしょうか。

【北海道並行在来線担当課長】

区間別検討会の協議は4つの区間で検討を進めていきます。バス事業者に対しては、バスルートを1年ほど前から示していきまして、ルートについてはほとんど了解されていますが、例えば高校や駅への乗り入れなどは、協議が終わっていないので、それらについてはバス事業者を交えて現地の調査をこれから実施していく予定です。バス事業者からは、そういった細かいルートも含めて検討・協議をしてからルート決定となると言われてるので、7月以降、鋭意やっつけようと思います。

【長万部町長】

バス事業者の調査もわかりますが、町によっては事情も違ってきますので、バス事業者の感覚ではなく、その地域をブロック分けしてそこで協議をしながら完成させていく、町の希望を踏まえながら検討していくほうがやりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

【北海道交通企画監（座長）】

おっしゃるとおり、地域の事情はそれぞれ違うと思いますし、通院・通学だけでも事情が違いますので、住民の方に不満が残らないようなやり方で丁寧にやりたいと思っています一方で、スピード感を持ってやりたい部分もありますので、できる限り具体的な絵をお示ししながら、地元の方とお話ができるようなレベルまで、熟度を高めていきたいと思っています。一番はバスを利用する方にとって便利になるかどうかということですので、目的地に早く行けるのかという不安があると思いますので、そこを払拭できるようなものになるよう鋭意努力するので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っています。

【黒松内町長】

黒松内・蘭越間は新規ルートになるわけですが、バス事業者が「うん」と言ってくれるのか心配しているところです。まだ確約できる段階にはないと思いますが、我々は走らせてくれるもの

だと思って地域にもお話していかなければならないので、バス事業者の意向が優先ということではなく、強力にお願いはしてほしいと思っています。土壇場で実はできませんということにはならないようにしっかりと詰めてほしいなと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

おっしゃるとおりで、鉄道がなくなるということでは足がなくなるということにはなりません。地域交通をどのように守るかというのは、我々にとっても皆さんと共通している課題ですので、そのようなことがないように対応していきますし、生活をする上で、できるだけ不便を感じないように利便性を高めていきたいと思っています。プロの目線でこうしたほうがいいのかというのもあるんですけども、地域の事情や要望として、こういうものがあるというのは、我々行政の立場としてしっかり言っていかなければならないと思っていますので、懸念の部分については、早い時期に払拭できるようにお示ししたいと思います。

【ニセコ町長】

ありがとうございます。これから計画の中身の熟度を上げていくということでしたが、今は概要で中間的にはこのような作業が進んでいるということ、住民説明会などで意見交換させていただいて、意見を聴取して反映していくという過程でやっていくのか、ある程度熟度を上げた段階で住民との協議をしていくのか、全体の流れとしてどのような位置付けになっているのか教えていただけるとありがたいです。

【北海道交通企画監（座長）】

次の議題である今後のスケジュールも含め、説明させていただきたいと思います。

（3）今後のスケジュールについて

事務局から資料2について説明。

【北海道交通企画監（座長）】

スケジュールで示しました9月10月というのは、広く考えていますが、9月は議会がありますので、ブロック会議としての開催は難しいと思っていますが、幹事会などをうまく使いながら、ここまで熟度を高めてきていますというようなことを常に情報共有させていただいて、住民の皆様にお示ししているいいよねというところまでは、できるだけ早く作業を進めてまいりたい。住民説明では、こうしてほしいなどいろいろと意見があるかと思いますが、我々も意見をお伺いした上で、修正をしていくと。

廃線になった日高線を担当させていただきましたが、皆様の行きたい場所も地域の事情もそれぞれ違うこともあり、100点を取れるまでは時間を要した経験があります。まずは及第点をいただけるように、住民の皆様にお示しできるように作業をできるだけ急ぎたいと思います。

また、長万部町長がおっしゃったように、地域の状況に耳を傾けてやれという意見もいただいているので、できる限り足繁く地元にお邪魔して意見を吸い上げた上で、まとめていきたいと考えております。

スケジュールはあくまでも目安ですけれども、できる限り私たちはこれを目指してやっていきたいと思っていますので、御協力をお願いしたいと思います。

【蘭越町長】

ある程度の目安というのは、今の説明でわかりました。ルートを決めていく中で、費用についても同時に検討されていくのか。というのは、便利になればなるほど増やしていけば、その分だけ財源の確保が必要になってくると考えられます。町民に説明した場合、便利にして欲しいという声もあると思うけれども、財源もかかってくると思うので、どのような考え方で進めていくの

か教えていただきたいと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

おっしゃるとおり、国から補助金をもらえる路線になると、単純に本数を増やすと赤字が増えるので、カラのバスを走らせているとよく言われるんですが、単純に増やせばいいという状況にはないかと思います。通院や通学では、小樽市や場合によっては札幌市まで通っているなど、いろいろな事情があると思いますので、利便性を高める観点から路線を検討します。費用対効果についても、バス事業者からは経費の話も当然出てきますので、それについての考え方をある程度整理してお示しできればと考えています。

【北海道鉄道担当局長】

区間別で進めている内容について、本日、全体の会議でお示しさせていただきました。バスルートについてこれからどのように住民に説明していくのか、ルートやダイヤの設定や車両の調達など、それに対してどれだけの費用や投資が必要なのかということは、地域交通を守るというお立場にある方としては、当然想像できること。

7月中旬に利用実態調査をしていきますが、もう1つステージを上げた内容にしていくために、区間別検討会で課題などをひとつひとつ確認や調整をしていって、その内容がどの段階で住民に説明できるか、中身を詰めていくことの中で、同時進行的に前に進めていくことになろうかと思っています。最後には、後志全体の地域交通の形を整え、住民の方からも評価される利便性の高いものを目指していきたいと思います。時間がかかるところはやむを得ないこともあるが、しっかりやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【黒松内町長】

今の話と関連しますが、黒松内町としては、バスルートは既存のJR線を尊重すれば、だいたい想像はついてしまう。問題は、ダイヤはどうなるんだということであり、住民や議会としては興味移ってきている。ダイヤも早め早めにたたき台を示していただきたいと思います。

【北海道鉄道担当局長】

そういう意味でも、今回スケジュールを示させていただきましたが、ここを目指してさらにしっかりとやっていく必要があると認識しています。

【黒松内町長】

11、12月に住民説明会を開いても、最終的にはダイヤはどうなるのと参加者や議会から聞かれると思うので、そこで答えられなかったら開催した意味がないような雰囲気にもなりかねないと思います。できれば、ダイヤもお示しいただきたいと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

ルートとダイヤはセットでお示ししないと、住民の皆様にも理解は得られないと思います。通学や通院では開始時間が決まっていますから、ここまでその時間に行けるのかという素朴な疑問もあります。そこは、セットでお話できるような形で示していきたいと思います。例えば、発車時間を少し遅らせても高校の前までバスで行けるなら、朝の10分20分は大事なわけなので、ニーズは上がってくると思います。駅までわざわざ行かなくても目の前にバス停があって良かったと喜んでもらえるようなルートも検討していきたいですし、車で道の駅まで送って行って、そこからバスに乗れるように、観光面にも配慮したやり方もあります。そのようにお示しできるように努力していきたいと思っています。

(4) その他

事務局から参考資料1、参考資料2について説明。

【北海道交通企画監（座長）】

バスルートがまだ決まっておられませんので、こういったツールについては今後の検討の材料としてお使いいただきたいと思いますし、ゼロカーボンとしても長い目で見れば重要な課題でありますし、世界から注目されている地域でもありますので、参考にご覧いただきたいと思います。

皆様からご意見ございますでしょうか。

【ニセコ町長】

お願いなんですけど、熟度を上げて良い資料を作っていただくのは希望しているんですけど、熟度を上げすぎて、相当すり合わせの時間、住民の皆さん色々な意見言っても、これはダメですとまでいかない、できるだけ早い段階で案を住民の皆さんに説明して、意見をある程度反映できるような、そういうラフなところからスタートしていただければありがたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【北海道交通企画監（座長）】

決まったものの雰囲気じゃない形を大事にしていきたいと思います。あとよろしいでしょうか。

【小樽市長】

単純な質問なんですけれども、バス転換にあたって、今バスの種類について説明ありましたが、導入は必要だと思いますし、検討はしていなければいけないと思うんですけど、この積雪寒冷地でこういった環境配慮型のバスを運行する上での課題とかがあっていうのは特になんかですか。

【北海道鉄道担当局長】

バッテリーの性能がどのくらい維持できるのかっていうのは、細かい部分でいくと、リスクとは言いませんけど、不安な部分はありますので、技術革新と実際のものがどこまで、我々の北海道の地域に入れられるのかっていうのは、もう少し時間をかけるというのではなくて、見守る必要があるのかなと。

【小樽市長】

ありますよね。

【北海道鉄道担当局長】

我々、道庁も電気自動車の公用車を持っていますけども、冬に暖房入るとダメで、結局使えないという事実あります。それを公共交通の場で導入するとなれば、そういったものは不安があれば、結局止まったりなったりで、利用者が不便さを感じてしまいますので、そこは慎重に考えなければいけないのかなと思います。

【北海道交通企画監（座長）】

技術が革新されたら、水素ステーションやEVターミナル、それぞれ道の駅や公共施設に配置されていく中で、熟度が高まっていく段階で導入していくという考え方もできるのかなと思いますし、あと今お示ししている型は中型、大型ですけど、もっと小さいEVがあれば、小回りがきいて導入費用が抑えられるというのもありますので、今回のものについては参考として眺めていただければよろしいかなと思います。新しい情報が出てきたら、もちろん、メニューも含めてお示ししたいと思いますので、よろしいでしょうか。

今日色々ご意見いただいた件につきましては、今後の幹事会やブロック会議にのせるように、我々として鋭意努めてまいりたいと思っています。それから、先ほどご意見があったように、バスルートの検討にあたっては、バス事業者さんの都合だけではなくて、住民の皆さんの意見をできるだけ反映できる中で、どうお知らせできるかが重要な点だと思いますので、我々としては、そういった地域課題も含めて、受け止めていきたいと思っています。

人口減少が他の地域より進んでいる北海道ですので、全道各地でこういう地域交通の問題って今出てきていますけども、後志においては、新幹線の駅ができるということと、高速道路が着実に延伸しているということがあって、これは他の地域と全く違う未来を描いていく可能性を秘めていますので。JRも当然2次交通の重要性は十分理解した上で、一緒に頑張りますと言ってきておりますので、何とかできるだけスピード感を持って、やっていきたいと思っていますので、ぜひ皆様のご協力のもとに、このスケジュールどおりに、できる限りやっていけるようにやりますので、どうぞよろしくお願いします。それでは、特になければこれで閉会させていただきたいと思っています。

以上